資料1
科学技術・学術審議会　人材委員会
研究開発イノベーションの創出に関わる
マネジメント業務・人材に係るWG（第4回）
令和6年3月14日

第４回「研究開発イノベーションの創出に関わる
マネジメント業務・人材に係るワーキンググループ」

研究開発マネジメントでの ファンドレイジング業務

ファンドレイジング実践の視点から

2024年3月14日

認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会
事務局長 小川　愛

jfra

日本ファンドレイジング協会

「寄付・社会的投資が進む社会の実現」を目指し、民間非営利組織のファンドレイジングに関わる人々と、寄付をはじめとする社会貢献に関心を寄せる人々のためのNPOとして、認定ファンドレイザー資格制度や子ども向けの社会貢献教育、寄付白書の発行などに取り組んでいます。

名称	認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会
代表	代表理事　鵜尾 雅隆
設立	2009年2月18日
拠点	〒105-0004 東京都港区新橋5-7-12 ひのき屋ビル7F
Webサイト	https://jfra.jp/

グッドガバナンス認証
2019G(1)0009

非営利組織の信頼性向上を目指し、一般財団法人非営利組織評価センターよりグッドガバナンス認証を取得しています。

Copyright Japan Fundraising Association

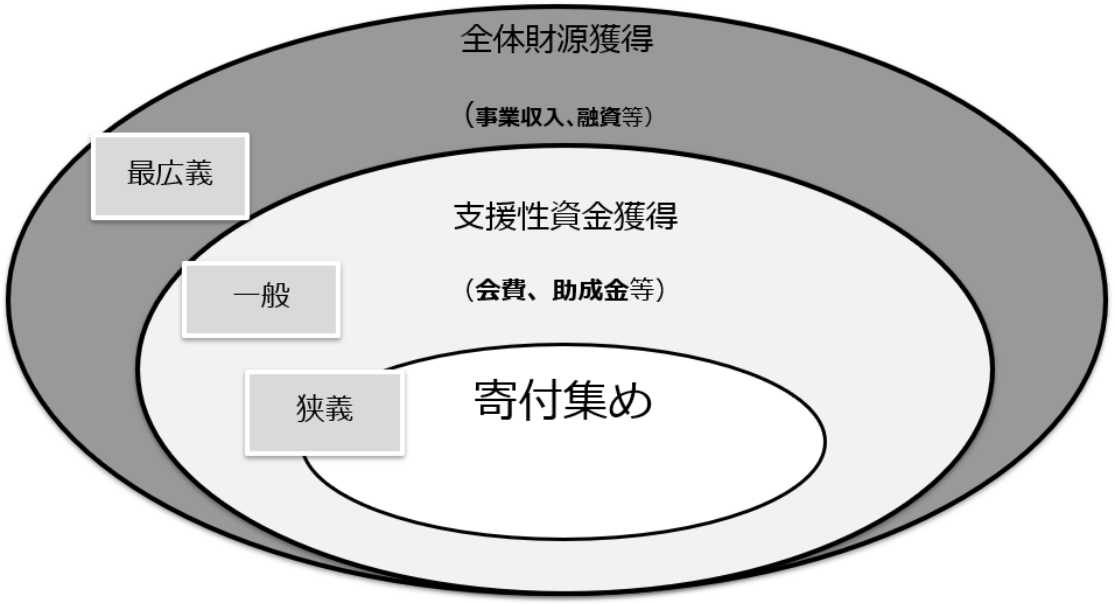
ファンドレイジングとは

ファンドレイジングとは

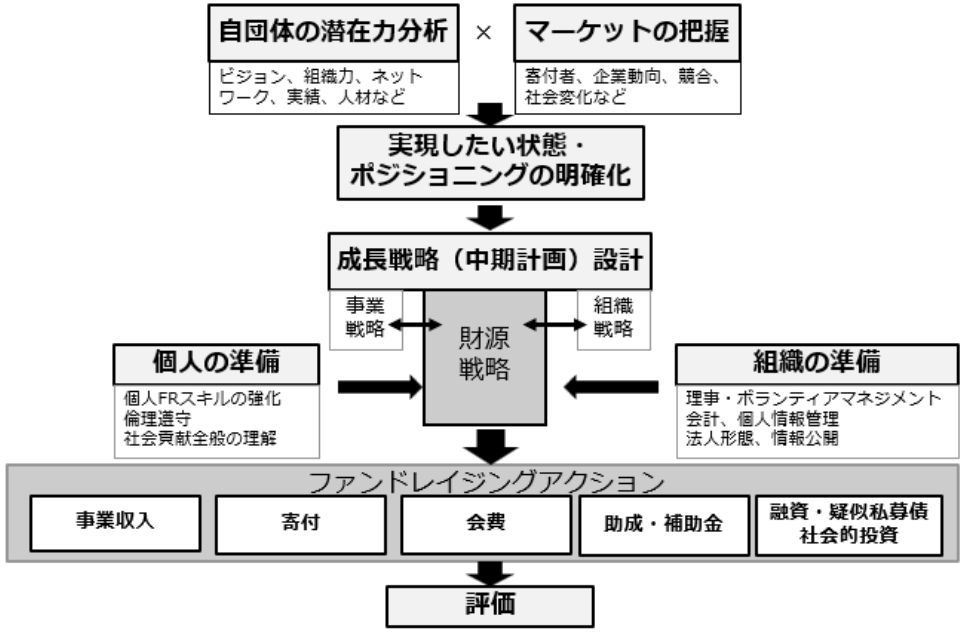
NPO(Non-Profit Organization：民間非営利組織)*が活動のために　資金を個人、法人、政府などから集める行為を総称して言う。

*広義には、大学、研究機関、学校法人を含みます。

<ファンドレイジングの範囲>



＜ファンドレイジング戦略の全体像＞



（日本ファンドレイジング協会『認定ファンドレイザー®必修研修テキスト』）

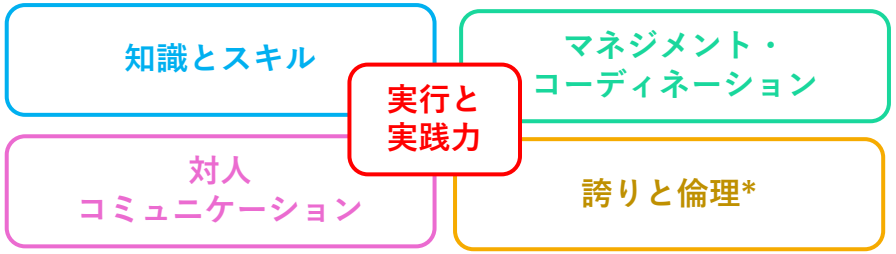
Copyright Japan Fundraising Association

ファンドレイザーとは

ファンドレイザーとは

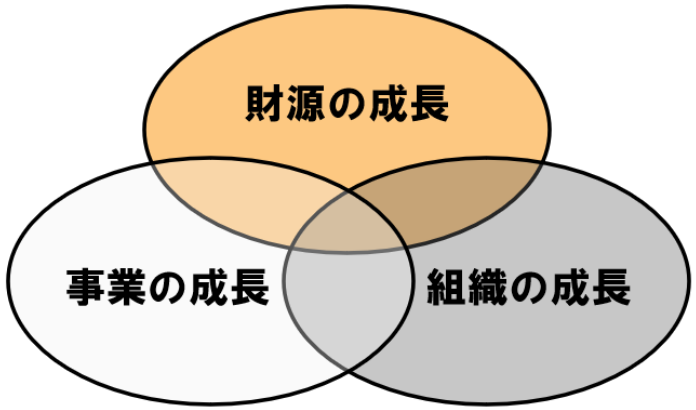
- ファンドレイジングに関連した業務を行う人を「ファンドレイザー(Fundraiser)」と呼ぶ。活動に必要な財源を獲得する人であると同時に、**社会に対して、解決しようとする社会的課題の理解を広げ、関係者の和を広げていく存在**である。「NPOと社会との間のパイプライン」とも言われる所以である。
- 認定ファンドレイザーは、**NPOに関する財源獲得業務のマネジメントのエキスパートであり、財源確保と同時に、団体の成長を担う存在**である。そのため認定ファンドレイザーは、単に活動資金を集めるというだけの意味にとどまらず、支援を集め、より多くの人に参加してもらう仕組み作りという視点を持つ必要がある。

日本ファンドレイジング協会ではファンドレイザーに求められる5つの能力を定義しています。2023年に、通称「不当寄附勧誘防止法」が制定されて以来、特に「倫理」に関しての注目は高まってきており、受け取る側から倫理観高く、ファンドレイジング活動をおこなっている。2021年には一般社団法人全国レガシーギフト協会による「遺贈寄付に関する倫理ガイドライン」も策定された。



*ファンドレイジング行動基準、ファンドレイジング行動基準ガイドライン

事業・組織・財源が一体となった成長・発展戦略の立案がファンドレイザーにも常に求められています。



（日本ファンドレイジング協会『認定ファンドレイザー®必修研修テキスト』）

Copyright Japan Fundraising Association

ファンドレイザー育成の研修体系

- 日本ファンドレイジング協会では、今、ほぼすべての研修をオンライン、オンデマンド形式で提供。
- 他の参加者とのグループワーク、ディスカッションが有効な内容の際にはオンライン、対面を統合させてた形式で開催

【資格】准認定ファンドレイザー

准認定ファンドレイザー必修研修
（ファンドレイジングの基礎と体系）

1,368名（2024年3月1日現在）

専門ファンドレイザー研修
（専門分野の知識と実践：大学、伴走支援、社会福祉、中間支援）

ファンドレイジング・スクール
（実践力重視の9ヶ月プログラム）

選択研修
（オンデマンド研修）
例:「助成金をてこに成長するファンドレイジング」「NPOが遺贈寄付を受けるための準備」等

【資格】認定ファンドレイザー

認定ファンドレイザー必修研修
（戦略策定プロセス）
（3年以上の有償実務経験必須）

183名（2024年3月1日現在）

協会認定講師

准認定ファンドレイザー必修研修 研修内容（オンデマンド、215分）

パート	項目
Part 1: ファンドレイジング概論	フィランソロピーとファンドレイジング
	認定ファンドレイザーの資格制度
	日本の寄付とボランティア
Part 2: ファンドレイジング実践の体系と基盤	戦略的なファンドレイジングの考え方
	事前準備-潜在力とポジショニングの把握
	成長・発展戦略(中期計画)の策定
	共感メッセージ力の強化
	ファンドレイザーの倫理(法的・社会的・職業的)
	マネジメント
	成果評価とリスク管理
	日本の政策・制度の特徴
	会計基準とアカウンタビリティ
Part 3: ファンドレイジングの個別スキル	戦略的な寄付集め
	様々な寄付プログラムの種類
	会員
	寄付・会費共通のプログラム
	助成金・補助金

認定ファンドレイザー必修研修 研修内容（オンライン、2日間）

パート	項目
Part 3: ファンドレイジングの個別スキル	事業収入
	融資・疑似私募債・社会的投資
戦略策定	ケーススタディーワーク(グループワーク)
	プレゼンテーション向上のためのトレーニング
	グループ発表およびレビュー
	自己プランニングセッション（キャリアについて考える）

（日本ファンドレイジング協会『認定ファンドレイザー®必修研修テキスト』）

大学ファンドレイザーの活動・活躍

大学ファンドレザーが、大学分野で当協会と共に、様々な取り組みを実施

日本ファンドレイジング協会大学チャプター

●大学をはじめ、教育、研究機関のファンドレイジングの発展のために活動する有志グループ”大学チャプター”（通称“ガクチャ”）。
●2019年３月７日に設立、会員数480人（2024年1月31日現在）
●勉強会やセミナー、メルマガでの情報提供を実施

https://www.jfraac.org/

ファンドレイジング大会での発表

●ファンドレイジングの年次カンファレンスで、対面、オンデマンドで合計3つのセッションを実施
●他分野のファンドレイジング事例を学び、情報交換をする機会でもあり、広くファンドレイザーコミュニティのピアラーニングの場
●(参考)有資格者が投票するファンドレジング大賞は独立行政法人国立科学博物館様が受賞

https://jfra.jp/frj/index.html

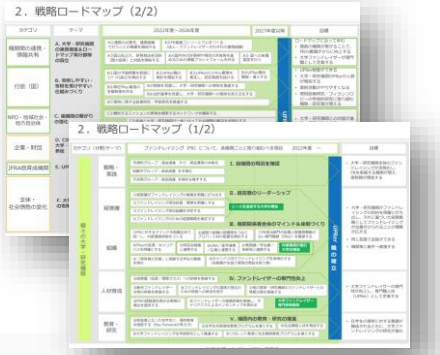
大学専門ファンドレイジング専門コース研修

●特定分野の専門ファンドレイザー育成の一環として、「大学分野専門ファンドレイジング専門コース」を2022年度から開催
・基礎：2時間(オンデマンドで提供)
・応用：半日x２ オンライン研修
●修了者は「大学ファンドレイザー」として認証
●現在、33名が認証を取得しており、認証者は協会HPにて公表している。(こちら)
(2024年度２月末時点)

https://jfra.jp/cfr/specializedfundraiser/

大学分野の戦略ロードマップの作成

●2022年、分野毎の戦略ロードマップを作成
●大学分野ではワークショップ、個別ヒアリング、大学チャプターでの勉強会を経て戦略ロードマップを策定
●将来構想としてのUFR（University Fundraiser）制度など、現役大学ファンドレイザー視点による今後の大学でのファンドレイジングの発展に向けた内容を発表



https://jfra.jp/pdf/ecosystem/roadmap_daigaku_220215.pdf

<参考> 国立研究開発法人での資金調達活動活性化のための人材育成研修

- 2020年度(令和2年度）、文部科学省の受託事業として、「国立研究開発法人による資金調達活動活性化のための人材育成手法開発に関する調査」を受託
- 国研が各機関に適した資金調達の方法を選択し、組織として自己収入を増加させていくために効果的な手法について検討を行った。そして国研を対象にセミナーを複数回実施し、そこで得られた気付きを取り入れながら、各法人において資金調達を実行できる人材育成に資する、研修モデルの開発を行った。
- 研修前後で、ファンドレイジングに関する理解度、課題認識、他の国研とのネットワークについてアンケート調査をした結果、セミナー受講後に変化が見られた。

■セミナー内容：オンラインにて４回実施

①資金調達(ファンドレイジング）の意義と価値を確認し、自法人における寄附拡大の可能性を探る
②アウトリーチ活動を有効化する組織の存在意義とブランディングの確立
③科学を実践する組織における投資・融資
④国研における科学技術・イノベーションの推進と自己資金調達（シンポジウム・セミナー）

- 各セミナーでは、登壇者からのご講演のあと、かならずブレイクアウトを実施し、他の国研の資金調達担当者と知り合うきっかけ作りとした。

研修前後でのファンドレイジングに対する意識変化

	「全くその通りである」「その通りである」と回答した者の割合		受講前→受講後の変化
	セミナー受講前	セミナー受講後	
ファンドレイジングの意義や価値を理解している	65.3%	79.0%	+13.7%
ファンドレイジングの課題を把握しあるべき姿を描けている	15.4%	42.1%	+26.7%
ファンドレイジングの全体像やトレンドを理解している	11.5%	47.4%	+35.9%
ファンドレイジングの事例やプロセスを理解しており身近に感じ、実行する準備ができている	11.5%	31.6%	+20.1%
アウトリーチ、ブランディング、投融資の基本的な知識がある	15.4%	21.1%	+5.7%
他の国研担当者とのネットワークを持っている	11.5%	36.9%	+25.4%

（文部科学省「国立研究開発法人による資金調達活動活性化のための人材育成手法開発に関する調査 (概要)」(p.11) https://www.mext.go.jp/content/20210518-mxt_chousei02-000007983_1.pdf

Copyright Japan Fundraising Association

(参考)共感的資金「寄付」の力

独立行政法人国立科学博物館

- 第14回日本ファンドレイジング大賞を受賞 (有資格者による投票により選考)

受賞理由:
昨年一番印象に残った大きなニュース性のある取組みで影響力も大きかった。教育機関・教育研究及び博物館等の施設が国立であっても寄付を必要とし、ファンドレイジングの取組みを行っていること自体が大きなメッセージになったと考えられる。

受賞コメント：
このたびは素晴らしい賞を賜り、大変光栄に思います。当館の活動にご理解いただき、ご支援くださった皆様に改めて、心から御礼申し上げます。
当館は自然史・科学技術史に関する標本・資料を広く収集・保管し、展示や学習支援活動を通じて、幅広い世代の皆さまに科学の面白さ、奥深さを伝え、豊かな社会を作ることを目指しております。多くの方のご支援のもと、これからも博物館の社会的役割を果たすため、職員一同、より責任感を持って努力いたします。

https://jfra.jp/news/50823

（写真）第14回日本ファンドレイジング大賞を受賞した国立科学博物館の有田寛之氏

Copyright Japan Fundraising Association

URAの視点からの考察

URAスキル認定制度におけるURA人材

大学等組織全体を俯瞰しながら、学術的専門性を理解しつつ、自身の業務に関する専門性とセクターに偏らない能力を駆使して、多様な研究活動とそれを中心に派生する様々な業務に積極的かつ創造性をもって関わり、研究者あるいは研究グループの研究活動を活性化させ、組織全体の機能強化を支える人材。

(一般社団法人リサーチ・アドミニストレータースキル認定機構)

多様化・高度化してくる開発マネジメント業務

- 研究セキュリティ/インテグリティ
- 倫理的・法制度的・社会的課題ELSI
- スタートアップ支援
- ファンドレイジングへの対応
- オープンサイエンス
- オープンアクセス対応 等

(「研究開発マネジメント業務および人材の現況に関するWGの共通認識」から)

→ 外部資金として寄付金等多様な資金獲得の可能性

- 広く社会、一般への大学のアピールとファンの獲得のためのアウトリーチ
- 単発の接点でなく継続した支援へとつながる関係性の維持
- 共感を得る対人コミュニケーションの実施

Copyright Japan Fundraising Association

外部資金調達の可能性：ファンドレイジングの視点から

URAの活動、引いては大学のファンドレイジング（資金調達）で一歩進めていただける可能性のあるスキル領域

- 広報・マーケティング手法 | 広く社会、一般への大学のアピールと”ファン”の獲得のためのアウトリーチ
  - 大学、研究をまずは知ってもらう仕掛けづくり
  - 「大学を好きになってもらう」マーケティング・アプローチ
  - 「先生・教授」のブランディングにより、ファンを増やす
  - 大学のファンづくりは、寄付の拡大、学生募集、優秀な教職員の獲得にもつながる

- 外部支援者とのリレーションシップ構築 | 単発の接点でなく継続した支援へとつながる関係性の維持
  - 卒業生からの周年寄付をきっかけとした継続寄付へのつながり、将来の遺贈寄付の可能性も
  - 研究助成をいただく企業から、他の研究への新たな助成、または寄付へ
  - 「寄付の御礼は7回伝える」はファンドレイザーの鉄則

- 共感を得る対人コミュニケーションの実施 | 信頼される関係性醸成のための第一歩
  - ステークホルダーマネジメントの観点からも「何のために、どなたから」を明確に
  - 助成金の申請書での表現にもつながる共感性コミュニケーション
  - 「寄付をください」は自分のためでなく、大学、研究への支援

- 上記推進のために、解決すべき課題の整理
  - リーダー、組織の、多様化する外部資金 (寄付を含む) への理解と積極的な関与への期待
  - 縦割り組織から共働へ
  - 専門家を孤独にしないための内外の連携、外部コミュニティーへの参加の促進
  - ファンドレイザーの専門職としての認知度の向上

➢ **URAとファンドレイザーの協働**
➢ **URAによるファンドレイジング手法の獲得**

・学びの越境
・専門職同士の連携

Copyright Japan Fundraising Association

今回お話をお聞かせいただきました次の方々に感謝いたします。

国立大学法人筑波大学 病院総務部品質・安全管理課主幹
認定URA、准認定ファンドレイザー
池田一郎様

国立大学法人徳島大学総務部未来創造課
リサーチ・アドミニストレーター、認定ファンドレイザー
小出静代様

認定特定非営利法人日本ファンドレイジング協会
東京都港区新橋5-7-12 ひのき屋ビル7階
info@jfra.jp
https://jfra.jp/